

2020年度創立記念日記念式典について

2020年12月14日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、2020年度創立記念日記念式典を下記の通り開催しましたので、お知らせいたします。

記

1. 開催日時: 2020年12月10日(木) 9時30分から12時00分
2. 場 所: 鉄道総研 国立研究所
主会場: インタラクションスクエア
副会場: 大会議室、エントランススクエア
3. 列席者および受賞者: 鉄道総研役員および職員 (136名)
(その他、職員によるWeb視聴457名)
4. 式次第:
 - (1) 会長式辞
 - (2) 理事長式辞
 - (3) 表彰等
 - 特別賞
 - 研究開発成果賞・業務成果賞
 - 研究開発成果褒賞・業務成果褒賞
 - 研究開発奨励賞
 - 成果功労賞
 - 表彰受賞者代表答辞
 - 永年勤続15年表彰(24名)
 - 永年勤続15年表彰受賞者代表答辞
 - 資格等取得者への記念品等贈呈
(博士号9名、技術士3名、一級建築士1名、社会保険労務士1名)
 - (4) 会長特別講演
「安全学と安全設計思想」
公益財団法人鉄道総合技術研究所 会長 向殿政男

【向殿政男会長式辞 要約】

創立記念日おめでとうございます。鉄道総研も創立34年を迎え、ビジョンである「革新的な技術を創出し、鉄道の発展と豊かな社会の実現に貢献します」のもと、鉄道事業者をはじめとする社会の負託に応え、着実な発展を遂げてきたことは、喜ばしい限りです。

さて、社会の潮流を眺めてみますと、現時点で、私には、三つの大きな流れがあると思えます。一つ目は、ICT(情報通信技術)によるデジタル技術の進展です。二つ目は、今、緊急に対応を迫られている新型コロナウイルス感染症の影響です。三つ目は、これらに影響を及ぼされている社会の価値観の変化です。

一つ目のデジタル技術に関しては、鉄道総研の基本計画「RESEARCH 2025」でも活動の基本方針として主軸になっています。世間では、デジタルトランスフォーメーションといわれ、ビジネスモデルや社会制度が大きく変わる時代であると騒がれています。IoT、AI、ビッグデータ、画像処理、クラウド、5G、ブロックチェーン等々のICT(情報通信技術)の発展のお陰で、

確かに社会は変わりつつあります。高度化、効率化、高速化、知能化、自動化、コスト削減化、ネットワーク化等々、いろいろな場面で ICT の技術が使われており、鉄道関係もその渦のまっただ中にあります。一時的なブームのような面もないわけではありませんが、この大きな方向は変わらないでしょう。しかし、ここで注意しなければならないことは、社会が高度化し、便利になると、そこには必ず新しいリスクが発生することです。鉄道事業の根本は、安全です。従って、鉄道総研として重要なことは、鉄道の安全を確保するという安全機能の発揮にこそ ICT を積極的に活用するという視点です。鉄道総研は、利用できるものは、どんどん取り入れ、鉄道の安全のプロフェッショナルとして、ICT を安全機能に発揮する技術開発を積極的に挑戦し、実用化していく先導役としての役割と責任があるということです。鉄道安全に関する基礎的な研究開発の継続、発展とともに、新しい時代に挑戦していくことが、鉄道総研の役割であると考えます。

二つ目は、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響です。世界的に甚大な影響を及ぼし、鉄道業者への打撃も深刻なものがあります。我々鉄道総研も例外ではありません。ただし、ピンチはチャンスと常々申し上げているように、この機会に、鉄道総研が一丸となって同じ方向を向いて努力するという体験を積む、これまで惰性で行っていた不要の習慣をそぎ落とす、あるいは、これまでにない新しい研究の方向性を見出すなど、チャンスに繋げることが可能だと考えます。働き方改革も含めて、変わらざるを得ないというより、積極的に、前向きに変えていく、イノベーションを起こす気構えで臨むときでしょう。

三つ目の潮流は、未解決の地球的課題の解決を目指す SDGs が示すように、社会の価値観が安全、健康、幸福(ウェルビーイング)を重視しようとする変化です。鉄道の安全のレベルを向上させ、安全・安心な社会を作っていくのが鉄道総研の使命の一つです。顧客の安全を守り、従業員の安全を守ることは、人間の安全、健康の確保を超えて、快適、幸福、生きがい、やりがいまで追求しようとする人間中心の社会の構築を目指すことにつながると考えます。その基本は、安全であり、「安全は価値である」という概念の普及です。Safety 2.0 が目指す協調安全や、今、経験しつつあるコロナがこの方向を後押ししているようにも思えます。

皆様には創立記念日を機会に改めて、輸送業務の最大の使命である「安全」について今一度熟考され、次期基本計画の活動の基本方針としての「安全性の向上」と「デジタル技術による鉄道システムの革新」の実現に取り組まれることをお願いして、私からの挨拶とさせていただきます。



会長式辞

【渡辺郁夫理事長式辞 要約】

本日、鉄道総研は創立 34 周年を迎えました。この日を迎えたことを皆さんとともに喜びたいと思います。また、本日に至るまで鉄道総研の活動に対してご理解、ご支援いただいた国や JR 各社をはじめとする鉄道事業者、関連する産業界の皆様にご感謝するとともに、今日の鉄道総研を築いてきた OB を含めた職員の皆さん、協力会社の皆さんのご尽力にも感謝申し上げたいと思います。

さて、今年度は「革新的な技術を創出し、鉄道の発展と豊かな社会の実現に貢献します」のビジョンのもと、新たな基本計画「RESEARCH 2025」をスタートさせました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、日本を含め世界中が大きな影響を受けています。鉄道総研においても、行事および実験等の中止や延期、在宅勤務の実施などといった感染症対策の実施により、事業運営にも大きな影響が出ています。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響は、JR 各社をはじめとする各鉄道事業において、これまでにないほどのお客さまのご利用の減少としても表れています。皆さんには、限られた予算を有効に使うことへの工夫や改善への取り組み、そして厳しい状況ではありますが、それぞれの事業で最大限の成果を修められるよう尽力して頂きたいと思います。

新たな基本計画「RESEARCH 2025」では、「(1)安全性の向上、特に自然災害に対する強靱化 (2)デジタル技術による鉄道システムの革新 (3)総合力を発揮した高い品質の成果の創出 (4)鉄道技術の国際的プレゼンスの向上 (5)能力を発揮でき、働きがいを持てる職場創り」の 5 つの基本方針を掲げています。これらは、日本の鉄道が直面する課題の解決、そして未来の鉄道の創造に向けた活動の方針であり、この方針は変えることなく活動を進めてまいります。

これから将来に向けて共に力を合わせ進んでいきたいと思いますが、皆さんに心がけて頂きたいことを 3 点お話ししたいと思います。まず一つ目は、「前向きに取り組む」ということです。前向きに取り組むことにより、新たな知恵や工夫が出てきます。たとえ困難な状況であったとしても、前向きな姿勢と取り組みが、私たちのあるべき姿であると思います。

二つ目は、「チャレンジ精神を持ち続ける」ことです。新たな手法や研究分野、仕事のやり方の改善など、様々なことに挑戦していきましょう。今、私たちを取り巻く環境は厳しいです。しかし、その環境を逆に好機ととらえ、失敗を恐れずに果敢に挑戦していきましょう。

三つ目に「対外的にも社内的にもコミュニケーションを大切」にしてください。コミュニケーションを通じ、風通しの良い職場を作り、鉄道総研を一つにして、より大きな力となるようにしていきましょう。



理事長式辞

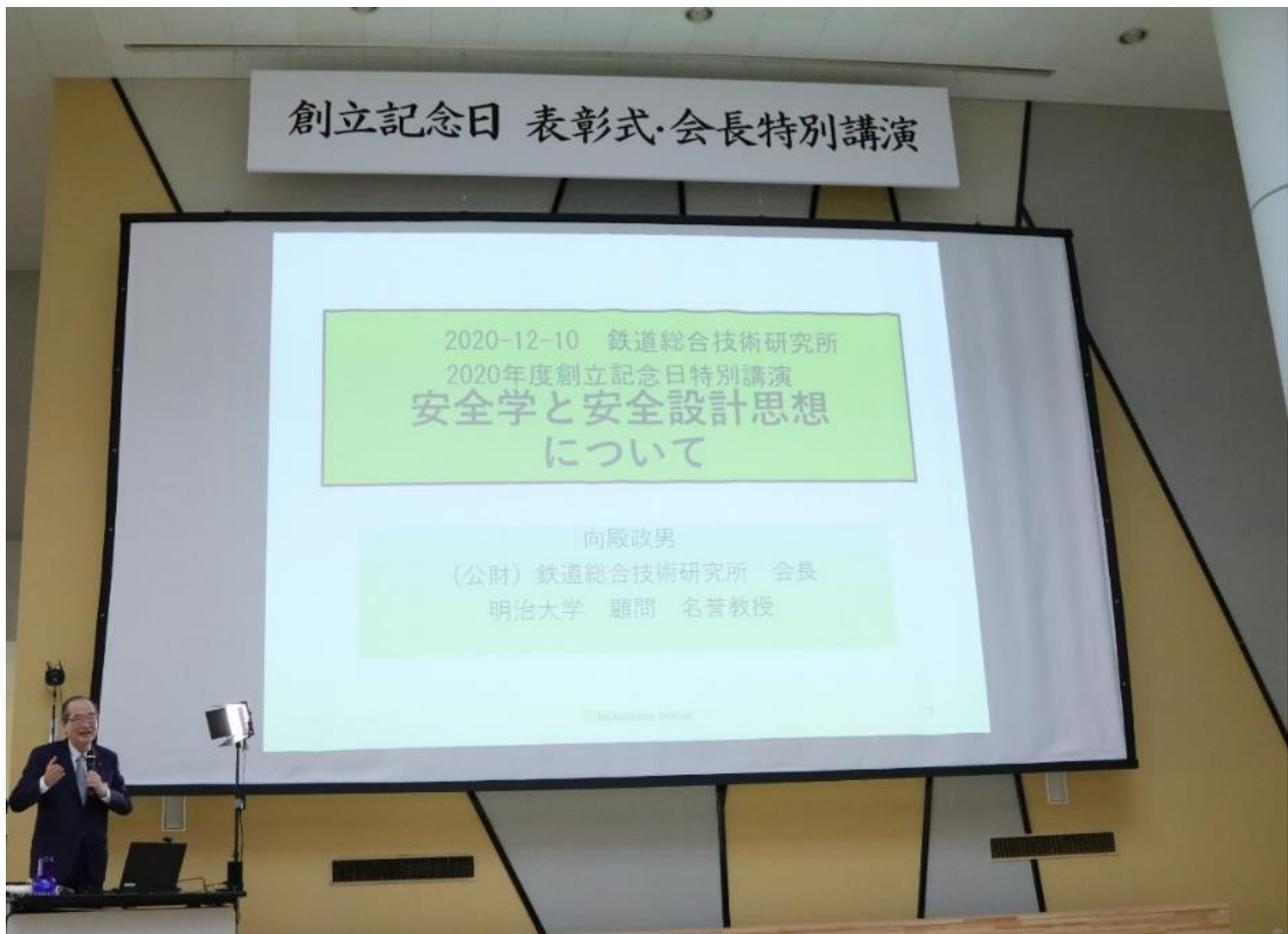
以上、三点について、この機会に皆さんにお願いしたいと思います。現在、鉄道総研は大変厳しい環境にあります。決して悲観する必要はありません。私たちの役割はより重要になっており、期待は一層高まっています。皆で力を合わせ、元気に前向きに頑張っていき、鉄道の未来を創り社会に貢献して参りましょう。

【2020年度所内表彰】

表彰件名と受賞者は別紙に記載。

【会長特別講演】

「安全学と安全設計思想」と題して、向殿会長が講演を行いました。講演では、「安全とは許容不可能なリスクが存在しないこと」であり、安全を技術的側面のみならず、人間的側面、社会的側面を含めて総合的にとらえ、さまざまな分野に適用できるように学問分野として一般化したものが「安全学」であると概説されました。また、安全設計思想の観点からの安全学について解説されたほか、新しい安全の潮流として、技術と人間が協調して安全を実現する「Safety 2.0」と、それによって達成される協調安全の重要性について紹介されました。日本から世界に向けた、協調安全に基づく安全文化についての情報発信の取り組みなどが紹介されました。その後、協調安全とファジィの関係性、協調安全実現のための必要な取り組み、安全学についての教育を行うことの重要性などについて活発な議論が交わされました。



特別講演

【2020 年度所内表彰 表彰件名と受賞者】

□特別賞

「構造物診断用非接触振動測定システムの開発と実用化」
上半 文昭

□研究開発成果賞

「3次元計測と画像解析を用いた電車線検測装置の開発」
松村 周、薄 広歩、根津 一嘉

「まくらぎ間隔拡大に対応したバラスト軌道の設計・管理手法の開発」
楠田 将之、弟子丸 将、伊藤 壱記、松本 麻美

「トンネル微気圧波対策手法」
福田 傑、宮地 徳蔵、大久保 秀彦、中村 真也

□業務成果賞

「令和元年東日本台風災害の対応」
令和元年東日本台風災害に対する支援グループ 31名
佐名川 太亮、神田 政幸、小林 裕介、斉藤 雅充、吉田 善紀、井上 太郎、
増田 雄輔、中島 進、松丸 貴樹、阿部 慶太、藤本 達貴、白根 岳、笠原 康平、
秋元 優太郎、伊藤 壱記、太田 直之、布川 修、渡邊 諭、高柳 剛、進藤 義勝、
藤原 将真、川越 健、長谷川 淳、浦越 拓野、河村 祥一、小島 謙一、馬目 凌、
古賀 誠、蒲原 浩平、児島 達也、内藤 直人

「北海道新幹線青函トンネル内速度向上試験」
中村 琢、柴田 直樹、山下 義隆、小西 武史

□研究開発成果褒賞

「車上計測による共振橋りょう抽出法の開発」
松岡 弘大、川崎 恭平、田中 博文、常本 瑞樹

「信号用電子機器の寿命評価手法の開発」
藤田 浩由、野村 拓也、国崎 愛子、竜本 ジョ

「踏切事故時の車体構造の衝突安全性評価手法」
中井 一馬、沖野 友洋、永田 恵輔、榎並 祥太

「3次元画像を活用した構造物目視検査支援システムの開発」
小林 裕介、増田 雄輔、笠原 康平、向嶋 宏記

「直流高抵抗地絡検出手法の開発」
森本 大観、樋口 靖展、赤木 雅陽

□業務成果褒賞

- 「地下駅の大規模拡張に伴う補強設計の技術支援」
仲山 貴司、津野 究、牛田 貴士
- 「弾性まくらぎ埋込型スラブ軌道の構造検討と評価」
渕上 翔太、高橋 貴蔵、桃谷 尚嗣
- 「総研詳細式を用いた強風時運転規制の実用化支援」
荒木 啓司、日比野 有、鈴木 実、飯田 雅宣
- 「トレーラー衝突により損傷したPC桁の復旧支援」
轟 俊太郎、荒木 一徳、斉藤 雅充、谷村 幸裕
- 「地震防災に関する国際規格の早期発行の実現」
佐藤 新二、山本 俊六、野田 俊太、津野 靖士

□研究開発奨励賞

- 「横風下の車両に働く空気力に関する数値解析的研究」
野口 雄平
- 「曲線区間で発生する高周波音の音源特性の解明」
川口 二俊
- 「鉄道車両用非接触給電システムの設計法の提案」
浮田 啓悟
- 「センシングデータに基づく鉄道設備の変状予測法の研究」
流王 智子

□成果功労賞

- 「WCRR2019の催行」
WCRR2019 実施グループ 60名
兎束 哲夫、瀧川 柳一、川西 智浩、安部 由布子、後藤 恵一、仁平 達也、
中曽根 隆太、野村 真梨子、平林 翔、谷口 陽子、土屋 隆司、松尾 浩一郎、
鈴木 江里光、宮内 瞳苗、河野 昭子、宇治田 寧、高田 雄一郎、松丸 貴樹、
井門 敦志、岩崎 誠、山崎 展博、野末 道子、横山 信行、本間 英寿、草 節、
新谷 雅典、野澤 浩之、坂井 宏行、川之上 俊博、芳賀 昭弘、川口 二俊、
太田 勝、相原 直樹、明星 秀一、田中 博文、風戸 昭人、梅原 康宏、
瀧上 唯夫、朝比奈 峰之、柏木 隆行、狩野 泰、土橋 亮太、津野 究、
仲山 貴司、松村 周、谷川 光、坪川 洋友、鶴飼 正人、羽田 明生、流王 智子、
國松 武俊、日比野 澄子、久保田 喜雄、赤坂 友幸、飯田 浩平、宮地 徳蔵、
末木 健之、澤村 陽一、斎藤 綾乃、野田 俊太